

四月に入り、花見の季節も^{さか}盛りを迎えようとしています。各地で花見が行われますが、しばらくすると満開の桜が散る姿を見て、世の中の無^{むじょう}常を感じる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

歴史を振り返りますと、これまで日本人は様々な花に接してきました。古くは中国から伝来した梅^めを愛でていた奈良時代。その後、遣唐使^{けんとうし}の廃止によって、それまで土地の神さまのよりしろとされて、農作業をする時期の目印になっていたヤマザクラで花見をするようになった平安時代。そして江戸時代になって多くの方が花見をする風習が広がってゆきます。

元禄時代^{げんろくじだい}には大きな園芸ブームが起こり、駒込^{こまごめ}の染井^{そめい}や大久保^{おおくぼ}でツツジの栽培が盛んになりました。この頃花見といえばツツジを指したほどの大流行でした。現在各地に残るツツジ園は、当時のキリシマツツジ^{もと}が基になっていると言われています。

さて、徳川吉宗^{とくがわよしむね}の享保^{きやうほう}の改革が始まると、徳川綱吉^{とくがわつなよし}が造った中野の犬小屋の跡地に桃園^{とうえん}（桃の園）を開きます。そして、それまで桜といえば上野のお山^{その}だけだった江戸の市中^{しちゆう}、向島^{むこうじま}や飛鳥山^{あすかやま}・御殿山^{ごてんやま}に吉野桜^{よしのざくら}を植えてゆきました。

さらに江戸時代も末になりますと、江戸彼岸桜^{えどひがんざくら}と大島桜^{おおしまざくら}を掛け合わせ、吉野桜^{よしのざくら}という名称で売り出されたのが、ご存知現在のソメイヨシノです。これが明治以降、明治維新で荒れた東京の町中に植えられ、時代が下がって太平洋戦争の前後にも、手入れが容易で大きく早く育つことことから公共施設を中心に沢山植えられるようになりました。今や日本中の桜のおよそ八割を占めると言われています。

さて、今、ソメイヨシノは大きな受難^{じゆなん}の時代を迎えています。元々寿命の短い木ではありましたが、ここ数年、外来種のクビアカツヤカミキリが桜の他にも、カキ・ウメ・モモ・ヤナギなどの特に弱った老木^{ろうぼく}の枝を食い荒らし、枯れさせる被害^かが関東一円に広がっています。十数年後には、桜に代わって、いろいろな花が咲いているかも知れません。

桜の花見の歴史を見ても、諸行無常^{しよぎやうむじょう}を感じます。桜の花が美しいのは、無常^{むじょう}

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

の中で咲いているからなのかも知れません。

つね な 常が無いと書いて無 むじょう 常・・・、無 むじょう 常 だからこそ大切な命。私たちも限りある命の大切さを感じながら花見をしてみても如何でしょうか。

— 終 —